

(公財)神戸大学六甲台後援会だより

(33)

凌霜賞(社会科学特別奨励賞)の授与について

当財団創立50周年記念として始めた行事は今迄ご報告しましたように、いろいろありましたが、その一つは六甲台の社会科学系在学生諸君のうち成績優秀な人達に、卒業生の同窓会である凌霜会の皆さんの願いとお祝いの気持ちを届ける凌霜賞の設定でした。凌霜賞は平成20年度から始めましたから、早いもので、今年で第6回に当たります。本年の荣誉ある受賞者は以下の通りでした。学部および大学院博士前期課程の皆さんに賞状と副賞としては、それぞれ年間授業料に相当する金額が贈られました。学部学生は、法学部2年生の丹伸和(以下敬称略)、3年生中元和寛、4年生浅井翼、経済学部2年生タナチャイサクル・タナンヤー、3年生ウイラブンチャイ・トウアンター、4年生森中蓉子、経営学部2年生下牧みき、3年生池田真也、4年生吉住友宏の9名の皆さんです。次に、大学院博士課程前期課程(法科大学院を含む)の学生は、法学の加納紅実、経済学の多鹿智哉、経営学の定兼仁、国際協力の石野紗也子それぞれ2年生の皆さんに、同じく贈られました。最後に、博士課程後期課程では、法学で1年生湯川勇人、経済学で1年生胡青、3年生宋政炫、近藤恵介、経営学で2年生高橋秀徳、林祥平、3年生で金マリナ、クリティニー・ポインタナラト、国際協力で1年生ジェジェ・モーゼス、坂上勝基、2年生佐藤希、3年生

島田健太郎、中沢美保子ら計26名の皆さんが受賞されました。なお、博士課程後期課程の皆さんへの副賞は、国際学会での報告の助成とか、短期留学助成とかにより、金額は異なっていることは追記しておかねばなりません。

授賞式は、6月18日午後2時から出光佐三記念六甲台講堂において挙行されました。当日は、凌霜会総会が開催される日でもあり、受賞者の皆さんは、多くの卒業生の皆さんからも祝福されることになりました。ご承知のように、グローバルゼーションの進展に伴って日本の大学も変革を迫られています。そういう中で安倍内閣も、大学における教授会の役割を変更し、学長の裁量余地をより大きくするような改革も実現しようとしています。ですが、何といっても次のわが国を担う人材である学生諸君が強い希望を持ち、自信を持って成長していけるようになることが望まれます。その意味でも本財団創立50周年を記念して始めたこの凌霜賞の意義は極めて大きいと言えるのではないかと思います。私たちは、改めて本年度の凌霜賞を受賞された皆さんに心からお祝いを申し上げるだけでなく、すべての六甲台社会科学系の学部・研究科の学生諸君が本賞決定の趣旨を諒とされて、充実した学生生活を送られるよう祈ってやみません。なお、本年度の凌霜賞としては、計1,180万円を支出させていただきます。いただいたことを付記いたします。

社会科学系3学部相互履修促進開講科目の履修状況について
卒業生の皆さんのうち、旧神戸商業大学および神戸経済大学で勉学された皆さんは、経済学士とか経営学士といいながらそ

それぞれ専門の教科の他に、幾つかの科目を必修として履修しなければならなかったことを記憶しておられると思います。新制神戸大学になってからも、この伝統を生かすために、例えば経済学部でも、法学部から憲法の他に、民法と商法、経営学部から経営学と会計学ないし簿記といった科目を必修科目にするようになったことを思い出して頂けるでしょう。ところが次第に専門化が進展し、各学部の授業科目が増えるに従って、このような他学部の授業科目を必修にするということがなくなってきました。しかし考えてみると、社会科学系だけでなく、あらゆる学系で、より広い視野からモノを考え、総合的に判断できる能力を持った人の養成が望まれる社会にもなってきました。そこで、先生方の中からも授業科目について再検討されるようになり、平成20年度から3学部の学生諸君が、設定された他の2学部授業科目を受講することで単位認定がなされるようになりました。過去5年間に3学部の3,337名の学生諸君が履修を申請、実際に単位を取得したのは1,700名だけでしたが、しかし、それでも一つの前進になったことは間違いありません。私たち六甲台後援会としては、そのうち各学部でも一度元に戻って、グローバルゼーションに対応できる一般教養教育を含めた大学教育の在り方について真剣にご検討されるようお願いしたいものだと思いますが、いかがなものでしょうか。

ありがたい寄附金について

毎号、皆さんの温かい母校愛の一つの象徴として、当会に対するご寄附について報告していますが、今期も毎年定例のよう

にご寄附を頂いている匿名希望の方(昭35・法)200万円、鶴浩一様(昭32・経済)5万円、吉田昭彦様(昭32・経営)2万円、竹村勝彦様(昭41・経済)10万円、渡会武嗣様(昭30・経済)5万円のほかに、特別のご寄附を頂きました。それは「J P六甲会」の皆さんからのご芳志です。J P六甲会というのは、昭和28年頃から「日本紙パルプ商事株式会社(略称J P)」の河合康美氏を中心に発足した会です。同会はかつては皆が裸で付き合う会というので、「裸会」と称しておられたようですが、東京凌霜クラブが東京六甲クラブと改称された時に、「J P六甲会」と改称されて今日に至っているとの説明を受けました。皆さんが来学された日は、ちょうど「神戸大学社会科学系教育研究所設立1周年記念シンポジウム」が出光佐三記念六甲台講堂で挙行された日であり、当会では皆さんを貴賓室でお迎えし、以下にご紹介させていただく皆さんからのご寄附、総額32万円の贈呈を受け、その後昼食を頂きながら、大学の現況と課題などについても新野理事長からご説明を申し上げました。その後、海野事務局長が六甲台講堂、山口誓子記念館、神大会館などにご案内し、皆さんに大変喜んで頂きました。その時のご寄附は、河合康美様(昭26)10万円、丹羽泰和様(昭28)1万円、田上量一様(昭28)1万円、伊藤克己様(昭29・経済)3万円、松井淳様(昭30・経済)1万円、高橋正二様(昭32・経済)3万円、北条英和様(昭33・経営)1万円、佐竹英三様(昭34・経済)3万円、落合洋様(昭35・経営)2万円、後藤紀雄様(昭38・経営)1万円、森田敏雄様(昭39・経営)1万円、須々木洋三様(昭41・経済)5万円、の各氏でした。重ねて厚くお礼

申し上げます。これで、皆さんからのご寄附は、今年度に入ってからでも254万円、平成16年度に新野理事長が呼びかけさせて頂いてから今日までに約2億8、702万円余にもなりました。誠にありがとうございます。

なお、六甲台後援会へのご寄附につきましては、税法上の特別措置のある証明書付きの領収書をお送りしております。ご寄附の手続きは以下の通りですので、よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（銀行からの連絡に時間がかかり、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構です）から、ご送金について事務局までご一報ください

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078)861-3013

E-mail rokodafund@kobe-u.com

国民経済雑誌 第207巻 第5号 (5月刊)

論 文

日本企業のグローバル競争力の再考 —企業財務データによる経営業績の国際比較—	黄加砂	藤川	政伸	仁幸
証券アナリストの利益相反規制の効果	鈴音	川木	健和	幸嗣
銀行における市場リスク情報の開示実態	山青	川口	友利	久作
国際開発援助の変容 —南北問題から地球環境問題へ—	宮竹	山本	和友	勝舞
再生可能エネルギー普及のための経済的インセンティブ		内	利	司

書 評

梶谷 懐 著『現代中国の財政金融システム： グローバル化と中央—地方関係の経済学』	日 置 史 郎
--	---------